

科目コード	28102		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	経済学概論〔（編入生、再履修者用）週2オンデマンド〕		担当者名	宇都宮 浩司			○		
			実務経験との関連	専門学校の教員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	第2クウォーター	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

経済学の基礎を学ぶ。具体的には、経済学の体系、経済学的ものの見方、経済学を学ぶ上での基礎知識、キーワードとなる経済用語、経済社会の構造などを学ぶ。

<授業の到達目標>

マクロ経済学、ミクロ経済学、その他の経済系専門科目を学ぶための基礎知識が身に付く。

<授業の方法>

講義形式で行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

時々実施する確認テスト（40%）と最後のまとめテスト（60%）で評価する。

<教科書>

飯田幸裕・岩田幸訓（2022）入門経済学〔第四版〕創成社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	経済学とは何か	経済学とはどういう学問かについて解説をおこなう。
2	グラフの見方・書き方	マクロ経済学、ミクロ経済学で使う基本的なグラフの見方・書き方を練習する。
3	国内総生産（GDP）	マクロ経済学の基礎となる国内総生産（GDP）の概念、その規模や世界各国GDPの比較をおこなう。
4	生産・所得・消費の決定	生産・所得・消費がどのようにして決まるかを考える。
5	貨幣	貨幣の成り立ち、貨幣の役割、さらには新しい貨幣（デジタル通貨、仮想通貨）について考える。
6	マクロ経済政策	経済をどのようにコントロールするか、財政政策、金融政策を中心に考える。
7	インフレ、デフレ、失業	インフレ、デフレの要因とその経済への影響、失業との関係などを考える。
8	ミクロ経済学の基礎	ミクロ経済学とは何かを解説する。
9	需要と供給	需要と供給の関係をさまざまな例をもとに考える。
10	需要と効用	消費者剰余、効用について考える。
11	供給と利潤	供給の決定、費用、利潤最大化について考える。
12	競争と独占	自由競争状態、独占状態について解説し、その問題点を考える。
13	市場の失敗、ゲームの理論	市場はなぜ失敗するのかを理論的に考える。また、ゲームの理論の基礎を学ぶ。
14	小テスト	講義内容確認のテストを行う。

科目コード	3G514		区 分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	スポーツマネジメント論 [週2]		担当者名	平岡 師玄哉			○		
			実務経験との関連	スポーツクラブ・健康増進施設運営会社の社員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	第4クォーター	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

・本授業では、スポーツを題材に「経営とは何か」を考える力を身につける・各回で提示される問いに対して個人で考え、スポーツクラブや地域スポーツの事例をもとに課題と解決策を検討する・基本的な経営理論を学ぶとともに、それらを実際のスポーツ現場にどのように活用するかを理解する

<授業の到達目標>

1. スポーツに関わる事例をもとに、経営的な課題を説明できる 2. 基本的な経営理論を用いて、課題に対する解決策を考えることができる 3. 授業で扱った内容について、自身の考えを整理し記述することができる

<授業の方法>

・本授業は、講義と個人ワークを組み合わせた課題解決型の授業として実施する・各回において、スポーツに関する具体的な事例や問いを提示し、学生は個人で課題について考察する その後、経営理論の解説を通して自身の考えを見直し、理解を深める・前半および後半の区切りに振り返りテストを実施し、学習内容の定着と理解度の確認を行う

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度 30%、授業課題・レポート 40%、振り返りテスト 30%

<教科書>

畑攻・小野里真弓基本・スポーツマネジメント大修館書店

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要説明・評価方法の説明
2	スポーツマネジメント(経営)がめざすもの	スポーツとマネジメント(経営)
3	スポーツマネジメントの方法	スポーツマネジメントの基本的使命
4	マネジメント(経営)組織の理念	マネジメント(経営)と理念の関係性
5	組織における人間観①	モチベーション理論①
6	組織における人間観②	モチベーション理論②
7	マネジメントと組織論	リーダーシップ
8	前半授業のまとめ	振り返り課題の実施
9	マネジメントとマーケティング論	マーケティングの基本的な仕組み
10	スポーツプロダクト	スポーツサービスとスポーツベネフィット
11	スポーツ事業と運動生活	運動の成立条件としてのスポーツ事業
12	スポーツ政策	スポーツ政策の基本スタンスとわが国の主なスポーツ政策
13	スポーツの普及・振興を目指して	大学スポーツについて
14	後半授業のまとめ	振り返り課題の実施

科目コード	3G201		区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	マクロ経済学 [週2]		担当者名	歌代 哲也			○		
			実務経験との関連	証券会社社員、商品取引所研究員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第3クォーター	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、国内総生産、物価、利子率、失業率等の国(または地域)を単位とした経済指標・経済活動を中心に、日本及び世界経済におけるマクロ経済指標の現状を理解し、それぞれの指標がどのような意味を持ち、どのような関連性があるかについて学ぶ。マクロ経済学における政府の役割、財政・金融政策の役割・必要性を理解し、これらの政策の効果を実際の経済データ等を用いて学ぶ。日本及び世界経済が抱える経済問題について、マクロ経済学の考え方で思考できることを目的とする。

<授業の到達目標>

本科目の到達目標は、主として以下の3点である。1. GDP、消費、投資、物価、失業率など、マクロ経済学の基本概念を説明できる。2. 財政政策・金融政策の基本的な仕組みを理解し、日本経済や世界経済との関係を説明できる。3. マクロ経済学の基礎理論を用いて、現実の経済問題について自分の考えを整理・表現できる。

<授業の方法>

本講義は、テキストおよび配布資料を基に、各自が内容を読み進めながら理解を深めることを基本とする。講義資料は電子データ(PDF等)で配布するため、学生自身の情報端末(パソコンやタブレット)を用いて受講すること。なお、必要に応じて各種Webサイト等を活用し、関連する情報を調べながら理解を深めることが望ましい。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学習の過程(プロセス) 60%、学修内容の理解40%

<教科書>

家森 信善 (2026/1/21) 【ベーシック+】マクロ経済学の基礎(第3版) 中央経済社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、学修方法(テキストの読み方・ノート作成方法・提出方法)の説明。マクロ経済学の全体像と、本授業で扱う内容の位置づけ。
2	GDPとは何か	GDPの定義、最終財と中間財、付加価値の考え方。経済規模を測る指標としてのGDPの意味。
3	GDPの計測	名目GDPと実質GDPの違い、物価変動の影響、実質化の考え方。経済成長率の基本的な見方。
4	消費	消費の決定要因、消費関数の考え方、所得と消費の関係。限界消費性向・平均消費性向の意味。
5	投資	投資の概念と役割、投資の決定要因。投資の限界効率と利子率の関係。
6	政府支出	政府支出の役割、財政政策の基本的な考え方。景気と政府支出の関係。
7	総需要	総需要の構成(消費・投資・政府支出)、各要素の関係。総需要曲線の基本的な考え方。
8	45度線分析①	45度線分析の基本構造、均衡所得の決定。総需要と所得の一致の意味。
9	45度線分析②	乗数効果の仕組み、政府支出や投資の変化が所得に与える影響。
10	IS曲線①	財市場における均衡、投資と利子率の関係。総需要と利子率のつながり。
11	IS曲線②	IS曲線の導出と性質。財政政策がIS曲線に与える影響。
12	LM曲線	貨幣市場の仕組み、貨幣需要と貨幣供給。利子率の決定とLM曲線の考え方。
13	IS-LM分析	IS曲線とLM曲線の同時均衡。財政政策・金融政策が所得と利子率に与える影響。
14	総まとめ・試験	本授業の内容の整理と確認。主要概念(GDP、消費、投資、45度線、IS-LM)の総復習および期末試験。

科目コード	37506		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	スポーツマーケティング論 [週2]		担当者名	小堀 浩志			○		
			実務経験との関連	スポーツクラブ・健康増進施設運営会社の社員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第2クォーター	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

スポーツマーケティングは近年、オリンピックをはじめ様々なスポーツに導入され、人とスポーツをより活発化させる機能として、大きな役割を果たしている。本講義では、スポーツマーケティングの歴史と発展その特性を知り、またスポーツマーケティングの幅広い要素と機能を実例を通じて学ぶことで、その本質を理解することを目的とする。また講義の終盤では、国内のスポーツマーケティングの実例も紹介する。

<授業の到達目標>

スポーツマーケティングの特性を理解する。スポーツマーケティングの幅広い機能を理解し、プロスポーツを中心にスポーツマーケティングの最新事例を知る。スポーツマーケティングについてチーム、リーグ、地域事例について説明でき、分析できる

<授業の方法>

講義形式を基本とし、授業内での課題提出、少人数でのグループワークを展開していく。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度 30% 授業課題評価30% レポート課題(授業時間内及び中間・最終) 40% 各回毎に授業課題または、レポートを1週間以内に提出し、その都度フィードバックを行う

<教科書>

原田宗彦・藤本淳也・松岡宏高（2020年9月1日）スポーツマーケティング改訂版株式会社大修館書店

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	講義概要、成績評価方法の説明
2	スポーツマーケティングとは何か?	スポーツとマーケティングの概念
3	スポーツマーケティングの歴史と発展	スポーツマーケティングの誕生とその発展
4	スポーツプロダクトの特性	するスポーツとみるスポーツ、サービスマーケティング
5	スポーツ消費者の特性	スポーツ消費者の定義と意思決定プロセス
6	スポーツマーケティングのプランニング	リサーチ、STP、マーケティングミックス
7	プロモーション	広告、PR、イベント戦略
8	スポーツ・スポンサーシップ	スポンサーシップの概念、発展と現状、効果
9	ブランディング	ブランドエクイティとは何か、ライセンスング
10	CRM(カスタマー・リレーションシップ・マネジメント)	顧客との関係、データベースマーケティングの未来
11	価格戦略	スポーツと価格、需要と供給、価格設定
12	マーケティングリサーチ	リサーチの意味、方法、分析と活用方法
13	事例紹介①国内スポーツ	プロ野球、Jリーグ、Bリーグのマーケティング事例
14	講義のまとめ	講義全体を通じてのまとめ

科目コード	28127		区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	簿記入門Ⅰ [Q1対面+オンデマンド]		担当者名	大池 淳一、北村 和久			○		
			実務経験との関連	実業系高等学校教員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター	単位数	2.00	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は、日商簿記検定3級の合格を目指す基礎科目です。簿記の基本原則である取引の8要素（費用・収益・資産・負債・純資産）の認識と会計処理を学びます。14回の授業のうち、奇数回は対面での解説とグループワーク、偶数回はオンデマンドでの復習演習というサイクルで、知識の定着を図ります。簿記の基本的な技術を習得するだけでなく、履修者全員で日商簿記検定3級合格という1つの目標に向かって頑張り、非認知能力の構成要素である「自分を高める力」「他者と協働する力」の育成を目指す。なお商業高校等で既に簿記を学習済みであって

<授業の到達目標>

①簿記の意義と役割を知り、複式簿記の基本原則を理解すること。②基礎的な取引（商品売買、現金預金、固定資産など）の仕訳ができるようになること。③取引の仕訳から各帳簿への転記、試算表作成、決算までの一巡の流れを理解すること。④日商簿記検定3級に合格するための基礎的な知識・技術を身につけること。

<授業の方法>

① 授業の方法は、主に解説の後、問題演習を中心とする。奇数回は「対面」偶数回は「オンデマンド」を基本とする。② 電卓演習・集計作業などの計算を行うので、各自電卓（関数電卓、スマートフォン不可）を持参すること。③ 本科目では、問題演習の性質をもつため、個人学修によるところが大きい。④本科目では、第2クォーター開講の「簿記入門Ⅱ」第3クォーター開講「簿記演習Ⅰ」第4クォーター開講「簿記演習Ⅱ」と併せて履修することで、日商簿記検定3級合格を目指す。本科目では記帳に関する技術を確実に身につけるため手書

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

① 受講態度・学習意欲・授業への参加度 30%② 小テスト 70%フィードバック：締切後、次の授業において解答を発表し解説する。

<教科書>

瀧澤ななみ（2026年2月13日）スッキリわかる 日商簿記3級 2026年度版 [ネット試験・統一試験 完全対応]TAC出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス・簿記の基本	授業の進め方、成績評価方法、授業方針、簿記の5要素、貸借対照表・損益計算書
2	復習演習①	第1章の例題・問題演習、簿記の用語・5要素の分類確認
3	仕訳①：商品売買(1)	3分法（仕入・売上）、勘定科目のルール、数字の書き方
4	復習演習②	第2章・第5章の仕訳トレーニング、商品売買の基本演習
5	仕訳②：商品売買(2)	返品・諸掛りの処理、クレジット売上、電子記録債権・債務
6	復習演習③	第6章の演習、商品売買の応用問題（諸掛り等）の解法確認
7	仕訳③：現金・預金	現金（現金過不足含む）、普通預金、定期預金、当座預金
8	復習演習④	第3章・第4章の演習、現金・預金取引の仕訳精査
9	帳簿への記入(1)	主要簿（仕訳帳・総勘定元帳）への転記、略式勘定への記入方法
10	復習演習⑤	第7章の演習、転記作業と帳簿のつながりの確認
11	試算表の作成	合計試算表・残高試算表の作成演習と自己チェック
12	復習演習⑥	第8章の演習、試算表作成のスピードアップトレーニング
13	【総括】まとめテスト	簿記入門Ⅰの範囲（第1章～第8章）に関する理解度確認テスト
14	テストの復習・解説	まとめテストの解答解説、間違えやすいポイントの再確認

科目コード	3G216		区分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	公共経営論 [Q3対面+オンデマンド]		担当者名	山本 満理子			○		
			実務経験との関連	県議会議員、裁判所調停委員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	第3クォーター	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	2単位

<授業の概要>

「行政を経営する」視点を学ぶ。限られた予算をどこに投資すれば街の未来が最大化するか、官民連携（PPP/PFI）やDX（ex. スマホ市役所）の手法を用いてシミュレーションする。学生を「未来の街を作るパートナー」として位置づけ、持続可能な地域運営モデルを構築する。

<授業の到達目標>

本講義では、現代経営学科のディプロマ・ポリシーに基づき、以下の能力を習得することを目標とする。1. 専門知識・理解：公共経営の諸理論（NPM、EBPM、PPP/PFI等）を体系的に理解し、行政経営における効率化と公平性の両立について専門的な知見を習得する。2. 論理性・分析力：地方自治体における予算配分や具体的政策課題を題材に、データに基づいた現状分析を行い、論理的な解決策を導き出す能力を養う。3. 地域貢献・実践力：具体的な政策提案を通じて、地域社会の持続可能な発展に主体的に寄与しようとする実践

<授業の方法>

対面回とオンデマンド回を連動させたハイブリッド形式で行う。*対面回：ワークショップ、ディスカッション、政策シミュレーションを中心に実施。*オンデマンド回：基本知識の講義ビデオ視聴、事例研究、および個人ワーク（リサーチ）を行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

*平常点（30%）：ワークショップへの貢献度、およびオンデマンド回の小レポート。*中間課題（20%）：特定の判例・事例に対する法的・経営的分析。*最終課題（50%）：行政をアップデートするための「政策提言書」。論理性、法的根拠、実現可能性の3点で評価する。

<教科書>

杉永佳甫・中林美恵子編著（2025/3/31）改訂版 公共経営学入門大阪大学出版会

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	公共経営（NPM）とは	ガイダンス。1億円ワークシート実施。「税金の投資対効果」を考える。
2	行政の組織とマネジメント	縦割り行政の功罪
3	民間活力の導入（PPP/PFI）	大学・企業・行政の連携。大学生として公共経営にどう携わることができるか。
4	政策評価とEBPM	データで語る政策
5	地方創生と地域経営	地域の強み（ex. 岡山における大学の多さ）をどうキャッシュポイントに変えるか
6	デジタル行政（DX）	アプリのUX設計（使いやすい行政とは？）
7	ソーシャル・イノベーション	現代日本の社会課題解決モデルを探る
8	プロジェクト立案(1)	大学・企業のメリット設計を立案・プレゼン
9	プロジェクト立案(2)	大学・企業のメリット設計を立案・プレゼン
10	プロジェクト立案(3)	大学・企業のメリット設計を立案・プレゼン
11	プロジェクト立案(4)	大学・企業のメリット設計を立案・プレゼン
12	プロジェクト立案(5)	大学・企業のメリット設計を立案・プレゼン
13	プロジェクト立案(6)	大学・企業のメリット設計を立案・プレゼン
14	プロジェクト立案(7)	大学・企業のメリット設計を立案・プレゼン

科目コード	3G313		区分	コア科目（1年生会計コース専門科目）			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	簿記論Ⅰ [Q1対面+オンデマンド]		担当者名	大池 淳一、北村 和久			○		
			実務経験との関連	実業系高等学校教員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は2025年度入学生より新設され、1年次後期から「会計コース」を志望する学生のみが選択する科目である。履修登録の段階で「会計コース」の志望を迷っている学生は選択しておくべきである。講義の内容は税理士試験「簿記論」の合格を目指すものである。そのため「簿記入門」「簿記演習」を履修しているか、商業高校等で日商簿記検定3級程度の知識・技術を有している必要がある。講義では税理士試験「簿記論」の個別問題に対応できる基礎力を養います。100分授業のうち、対面で理論と解法を学び、オンデマンドで徹底的な復習演習を行い

<授業の到達目標>

①税理士試験レベルの個別論点（現金預金、有価証券、固定資産等）の正確な仕訳ができる。②各資産・負債の評価基準を理解し、決算整理ができる。

<授業の方法>

①次年度8月に税理士試験「簿記論」を受験し合格することを目標とするため、履修する条件として「簿記入門」「簿記演習」を同時に履修しているも、もしくは日商簿記検定3級取得者あるいは同程度の知識を有する者に限る。②授業の方法は、授業ではテキストに従い主に問題演習を行う。③電卓演習・集計作業などの計算を行う場合もあるので、各自電卓（関数電卓、スマートフォン不可）を持参すること。④第1回に参加することは必須で、授業方針を納得の上履修すること（他の授業への参加・公欠などのやむを得ない事情がある場合には、事前に担当教員

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

① 受講態度・学習意欲・授業への参加度 30%，② 小テスト 70%フィードバック：締め切り後に解答を発表し、解説する。

<教科書>

TAC株式会社（税理士講座）税理士 簿記論 個別問題の解き方 第8版TAC出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス・簿記の基本	授業方針の説明、簿記の基本原則と仕訳・転記の再確認
2	基礎演習（オンデマンド）	取引の仕訳と総勘定元帳への転記・集計演習
3	現金預金と債権債務	銀行勘定調整表の作成、不渡手形、貸倒引当金の個別問題
4	債権債務演習（オンデマンド）	手形の裏書・割引、貸倒引当金の繰入・戻入計算
5	有価証券の評価	売買目的、満期保有目的、子会社・関連会社株式の評価
6	有価証券演習（オンデマンド）	有価証券の利息計算、時価評価、減損処理の演習
7	棚卸資産の処理	売上原価の算定（五分法等）、棚卸減耗損と商品評価損
8	棚卸資産演習（オンデマンド）	先入先出法、移動平均法による期末商品の評価演習
9	有形固定資産①	減価償却（定額・定率・生産高）、資産の売却・買換え
10	固定資産演習（オンデマンド）	建設仮勘定、資金的支出と収益的支出の区分演習
11	有形固定資産②とリース	リース取引（所有権移転・外）、資産除去債務の基礎
12	リース演習（オンデマンド）	リース料支払時の処理、減価償却費の計算演習
13	負債・純資産	引当金の計上基準、剰余金の配当と処分
14	総括演習（オンデマンド）	第1クォーターの学習範囲に関する確認テストと個別問題の総仕上げ